

令和7年度

実務経験のある教員等による授業科目

理学療法学科 教育課程（令和6年度以降入学の方）

1 基礎分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解									
保健体育									
レクリエーション実技 I	30						30	1	◎
基礎分野計	30						30	1	

3 専門分野

科目	1年次		2年次		3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
理学療法評価学									
理学療法評価学Ⅲ			60				60	2	◎
小計			60				60	2	
理学療法治療学									
日常生活活動学 I			30				30	1	◎
運動療法学			60				60	2	◎
理学療法総合演習 I			60				60	2	◎
小計			150				150	5	
総合計	30	0	210	0	0	0	240	8	

1単位の授業時間は、講義・演習にあつては15～30時間、実験・実習・実技にあつては30～45時間とする。

臨床実習にあつては1単位を40～45時間とし、合計21単位840～945時間で構成される。

令和7年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション実技 I (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

レクリエーション活動を通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーションの方法を学ぶ。
--

◇到達目標

レクリエーション活動を通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーションの方法を修得する。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義演習	
第2回	レクを楽しむ	講義演習	
第3回	健康観	講義演習	
第4回	ウォーキングトライ 300	講義演習	
第5回	アイサポート運動	講義演習	
第6回	野外スポーツ(スカイクロス)	講義演習	
第7回	野外スポーツ	講義演習	
第8回	生涯スポーツ 1	講義演習	
第9回	生涯スポーツ 2 (記録)	講義演習	
第10回	生涯スポーツ 3	講義演習	
第11回	車いすバスケ	講義演習	
第12回	車いすバスケ	講義演習	
第13回	音楽療法	講義演習	
第14回	音楽療法	講義演習	
第15回	レポートテスト	講義演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 (100%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	なし
参考図書	レクリエーションの基礎
留意事項	学内の授業は講堂にて実施 運動は学校の指定・上靴使用 ※活動場所注意 講義演習内容は予定ですので諸事情により変更があります 資格取得科目につき現場実習が課せられます

令和7年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法評価学Ⅲ (実務経験のある教員等による授業科目)	田守 康彦 ・ 米田 文博	2	2	前期	必修 選択

◇講義概要

安全かつ効果的な理学療法が提供できるように、疾患や障害に対して適用される神経系の各検査と測定の意味・目的を理解する。実技を通して種々の機能障害を把握するための基本的な知識や技術を修得する。理学療法士が行う検査測定結果から臨床推論への基本的な流れが展開できる素地を養う。

◇到達目標

- ・ 理学療法評価における神経学的検査の意味・目的と評価方法について説明できる。
- ・ 神経系の異常による機能障害の程度と関連要因を把握するために必要となる基本的な評価項目を選択することができる。
- ・ 講義で学んだ神経学的検査を安全に実施することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	担当
第1回	オリエンテーション,感覚検査(総論)①	講義	米田
第2回	感覚検査②:表在感覚	講義・実技	米田
第3回	感覚検査③:深部感覚	実技	米田
第4回	感覚検査④:複合感覚	実技	米田
第5回	反射検査①	講義	米田
第6回	反射検査②	実技	米田
第7回	筋緊張検査①	講義	米田
第8回	筋緊張検査②	実技	米田
第9回	片麻痺機能検査(総論)①	講義	米田
第10回	片麻痺機能検査② BRST: I～II	実技	米田
第11回	片麻痺機能検査③ BRST: III	実技	米田
第12回	片麻痺機能検査④ BRST: IV～VI	実技	米田
第13回	平衡機能検査①	講義	田守
第14回	平衡機能検査②	実技	田守
第15回	バランス検査①	講義	田守
第16回	バランス検査②	実技	田守
第17回	協調性検査①	講義	田守
第18回	協調性検査②	実技	田守
第19回	脳神経検査①	試験	田守
第20回	脳神経検査②	試験	田守

令和7年度 理学療法学科 シラバス

第21回	実技試験	試験	複数教員
第22回	実技試験	試験	複数教員
第23回	脳神経検査③	講義・実技	田守
第24回	脳神経検査④	講義・実技	田守
第25回	高次脳機能検査①	講義・実技	田守
第26回	高次脳機能検査②	講義・実技	田守
第27回	高次脳機能検査③	講義・実技	田守
第28回	高次脳機能検査④	講義・実技	田守
第29回	失語症①(言語聴覚学士教員による)	講義・実技	ST学科教員
第30回	失語症②(言語聴覚学士教員による)	講義・実技	ST学科教員
第31回	定期試験	試験	米田

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (20%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (定期試験 80%)
------	--

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価学 改訂第6版. 金原出版株式会社 ・理学療法 検査・測定ガイド 第2版. 文光堂 ・ベッドサイドの神経の診かた 改訂第18版. 南山堂 ・病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版. MEDIC MEDIA
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 第3版. MEDICAL VIEW ・実験医学別冊 改訂版 もっとよくわかる! 脳神経科学. 羊土社 ・理学療法評価学 第3版 (標準理学療法学 専門分野). 医学書院 ・理学療法評価学テキスト 改訂第2版. 南江堂 ・理学療法評価学 (Crosslink 理学療法学テキスト). MEDICAL VIEW
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・脳・神経系の理解が必要となるため、必ず解剖学や生理学の復習をしておくこと。 ・実技があるため、Tシャツや短パンを常に準備しておくこと。 ・講義前・後に解剖学や生理学で学んだ知識と照らし合わせること(約30分)。 ・予習・復習を行うこと(約60分)。

令和7年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
日常生活活動学 I (実務経験のある教員等による授業科目)	長坂 俊昌	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

<p>日常生活動作の概念を理解する。 日常生活動作の評価について理解する。 日常生活動作に関わる環境因子について理解する。</p>

◇到達目標

<p>日常生活活動の概念を説明し、生活機能における位置づけが説明できる 日常生活活動の評価が実施できる 日常生活活動における環境因子（人的、物理的）を理解し、指導に活用することができる。</p>

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ADLの位置づけ・概念・範囲	講義	
第2回	ICFとADL（ADL指導）ADL評価と歴史・目的・実用性	講義	
第3回	時期別意義・さまざまなADL評価	講義	
第4回	B I 評価方法	講義	
第5回	F I M 評価方法	講義	
第6回	F I M 評価方法	講義	
第7回	基本動作概論	講義	
第8回	基本動作各論 各動作意義 介助法など	講義・実技	
第9回	リハ支援機器 概論	講義	
第10回	松葉杖指導	講義・実技	
第11回	歩行器・車椅子・自助具など	講義・実技	
第12回	複合動作指導 概論	講義	
第13回	各種杖の使用方法など	講義・実技	
第14回	車椅子基本構造 操作など	講義・実技	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	---

教科書	日常生活活動（ADL） 千住秀明 神陵文庫 脳卒中の機能評価 S I A SとF I M
参考図書	ADLとその周辺 伊藤利之 医学書院 理学療法ハンドブック 協同医書 など
留意事項	実技を行う場合は、ふさわしい服装で受講すること。予習復習に努めること。

令和7年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動療法学 (実務経験のある教員等による授業科目)	歌川 貴昭・熊澤 浩一	2	2	前期	必修 選択

◇講義概要

1. 解剖・運動・生理学、運動療法概論等の知識を復習・整理する。
2. 各種障害に対する基本的運動療法の意義・理論・実際を学ぶ。

◇到達目標

1. 運動療法に必要な解剖・運動・生理学、運動療法概論等の知識を使用することができる。
2. 各種障害に対する運動療法について、目的・方法・効果を医学的根拠に基づいて述べることができる。
3. 健常者に対して、基礎的な運動療法を実施することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション、運動療法の基礎・リスク管理	講義	熊澤
第2回	関節可動域制限に対する運動療法（目的、関節運動、病態と原因など）	講義	熊澤
第3回	姿勢障害に対する運動療法（姿勢の定義・評価）	講義・実習	歌川
第4回	姿勢障害に対する運動療法（体幹の安定性）	講義・実習	歌川
第5回	基本動作能力障害に対する運動療法（寝返り・起き上がり）	講義・実習	歌川
第6回	基本動作能力障害に対する運動療法（立ち上がり）	講義・実習	歌川
第7回	歩行障害に対する運動療法（歩行バイオメカニクス）	講義	歌川
第8回	歩行障害に対する運動療法（動作観察・分析）	講義・実習	歌川
第9回	持久力低下に対する運動療法（持久力の生理学的メカニズム）	講義	歌川
第10回	持久力低下に対する運動療法（評価・運動療法）	講義・実習	歌川
第11回	コンディショニング、全身調整運動（循環調節）	講義・実習	歌川
第12回	バランス障害に対する運動療法（バランス障害の定義・評価・運動療法）	講義・実習	歌川
第13回	協調性運動障害に対する運動療法（協調性障害の定義・障害理解）	講義	歌川
第14回	協調性運動障害に対する運動療法（重錘・弾性包帯・体操）	講義・実習	歌川
第15回	関節可動域制限に対する運動療法（評価のポイント、禁忌・注意点）	講義・実習	熊澤
第16回	関節可動域制限に対する運動療法（運動療法の種類と意義）	講義・実習	熊澤
第17回	関節可動域制限に対する運動療法（ストレッチング、二関節筋）	講義・実習	熊澤
第18回	関節可動域制限に対する運動療法（様々なストレッチング）	講義・実習	熊澤
第19回	筋力低下に対する運動療法（骨格筋の機能、筋力規定因子、原因、様式）	講義・実習	熊澤
第20回	筋力低下に対する運動療法（3大原理、トレーニングの種類など）	講義・実習	熊澤
第21回	筋力低下に対する運動療法（OKC、CKC）	講義・実習	熊澤
第22回	筋力低下に対する運動療法（スクワット、スロートレーニングなど）	講義・実習	熊澤
第23回	運動連鎖と姿勢（分類と機能・下肢荷重連鎖）	講義・実習	熊澤

令和7年度 理学療法学科 シラバス

第24回	痛みに対する運動療法	講義	熊澤
第25回	末梢神経性運動麻痺に対する運動療法	講義	歌川
第26回	感覚障害に対する運動療法	講義	歌川
第27回	腎機能障害に対する運動療法	講義・実習	歌川
第28回	火傷の運動療法	講義・実習	歌川
第29回	加齢による機能障害に対する運動療法（加齢による生理的変化）	講義	歌川
第30回	加齢による機能障害に対する運動療法（運動療法）	講義・実習	歌川

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験（ %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（20%） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input checked="" type="checkbox"/> その他（定期試験 80%） ※再試験があった場合は、再試験のみで評価する
------	--

教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動療法学 石川朗 編 中山書店
参考図書	運動療法学-障害別アプローチの理論と実際 第2版 市橋則明 編 文光堂 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 吉尾雅春 編 医学書院 運動療法学 柳澤健 編 金原出版 Crosslink 理学療法テキスト 運動療法学 対馬栄輝 編 MEDICAL VIEW IDストレッチング 鈴木重行 編 三輪書店 病気が見える vol.7 脳・神経 メディックメディア
留意事項	※ 各回の該当する運動療法学概論（運動療法学総論の教科書）事前に復習しておくこと（約30分） ※ 講義後にテキスト、講義資料を用い復習をおこなうこと（約60分） ※ 服装は学校指定ジャージ、半袖・短パン等で筋や関節が露出できるようにしてください

令和7年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法総合演習 I (実務経験のある教員等による授業科目)	長坂俊昌・田守康彦・歌川貴昭・米田文博	2	2	前期	必修 選択

◇講義概要

講義・演習を通じて直接的、間接的情報収集の意義・目的を理解し、実施に必要な知識・技能・態度を習得する。

◇到達目標

- ・ 間接的、直接的情報収集の意義目的の理解、実施に必要な知識・技能・態度の習得
- ・ 理学療法過程について理解できる。
- ・ 評価計画が立案できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション 理学療法の職業理解について	講義	長坂
第2回	理学療法過程 疾患の調べ方について	演習	複数教員
第3回	疾患理解について	演習	長坂
第4回	初期仮説立案（情報の着眼点について）	講義	複数教員
第5回	間接的情報収集について	講義	歌川
第6回	カルテからの情報収集	演習	複数教員
第7回	バイタルサイン	講義	田守
第8回	徒手筋力検査法	演習	田守
第9回	形態計測演習	講義	歌川
第10回	関節可動域測定演習	演習	歌川
第11回	反射検査演習	講義	田守
第12回	感覚検査演習	講義	複数教員
第13回	医療面接	講義	長坂
第14回	復習	講義	長坂
第15回	評価計画立案ワーク	演習	長坂
第16回	評価計画立案ワーク	演習	複数教員
第17回	評価計画立案ワーク	演習	長坂
第18回	評価計画立案ワーク	演習	複数教員
第19回	評価計画立案ワーク	演習	長坂
第20回	評価計画最終調整	演習	複数教員
第21回	5学科合同演習 専門職連携	演習	長坂
第22回	5学科合同演習 専門職連携	演習	長坂

令和7年度 理学療法学科 シラバス

第23回	評価実践	講義	複数教員
第24回	評価実践	演習	複数教員
第25回	評価実施後指導 情報整理	講義	複数教員
第26回	評価実施後指導 情報整理	演習	複数教員
第27回	OSCE 演習	講義	田守
第28回	OSCE 演習	演習	歌川
第29回	OSCE 演習	講義・演習	米田
第30回	見学実習Ⅱ直前ワーク	講義・演習	複数教員
第31回	定期試験	講義	長坂

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験(%) <input type="checkbox"/> 実技試験(%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価(30%) <input type="checkbox"/> 小テスト(%) <input type="checkbox"/> レポート(%) <input checked="" type="checkbox"/> その他(定期試験 70%)
------	---

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版. 金原出版 ・講義資料（講義中に配布する）
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・実践編 ケースで学ぶ 理学療法臨床思考 第2版. 文光堂 ・理学療法評価法学 改定第6版. 金原出版 ・図解 理学療法 検査・測定ガイド 第2版. 文光堂 ・ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版. 南山堂 ・統合と解釈がよくわかる 実践! 理学療法評価学. 医歯薬出版 ・ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改訂版—. 中央法規 ・理学療法ハンドブック 改訂第4版（第1～4巻）. 協同医書出版社 ・理学療法 臨床実習サポートブック. 医学書院
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習を想定し、ケーシー・学校指定シューズを着用の上、身だしなみを整えて受講すること。 ・予習・復習を行うこと。
備考	

令和8年度

実務経験のある教員等による授業科目

理学療法学科 教育課程

1 基礎分野

科目	第1年次		第2年次		第3年次		時間数	単位数	実務 経験
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解									
保健体育									
レクリエーション実技 I	30						30	1	◎
小計	30	0					30	1	

3 専門分野

理学療法評価学									
理学療法評価学Ⅱ		45					45	2	◎
理学療法評価学Ⅲ			60				60	2	◎
小計	0	45	60				105	4	
理学療法治療学									
日常生活活動学 I			30				30	1	◎
運動療法学			60				60	2	◎
理学療法総合演習 I			60				60	2	◎
小計	0	0	150	0	0	0	150	5	
総合計	30	45	210	0	0	0	285	10	

1単位の授業時間は、講義・演習にあつては15～30時間、実験・実習・実技にあつては30～45時間とする。
臨床実習にあつては1単位を40～45時間とし、合計21単位840～945時間で構成される。

令和8年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
レクリエーション実技 I (実務経験のある教員等による授業科目)	中西 信之	1	1	前期	必修 選択

◇講義概要

レクリエーション活動を通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーションの方法を学ぶ。
--

◇到達目標

レクリエーション活動を通して心身の機能を保ちつつ、レクリエーションの方法を修得する。
--

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション	講義演習	
第2回	レクを楽しむ	講義演習	
第3回	健康観	講義演習	
第4回	ウォーキングトライ 300	講義演習	
第5回	アイサポート運動	講義演習	
第6回	野外スポーツ(スカイクロス)	講義演習	
第7回	野外スポーツ	講義演習	
第8回	生涯スポーツ 1	講義演習	
第9回	生涯スポーツ 2 (記録)	講義演習	
第10回	生涯スポーツ 3	講義演習	
第11回	車いすバスケ	講義演習	
第12回	車いすバスケ	講義演習	
第13回	音楽療法	講義演習	
第14回	音楽療法	講義演習	
第15回	レポートテスト	講義演習	

評価方法	<input type="checkbox"/> 定期試験 (%) <input type="checkbox"/> 実技試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価 (100%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 (%)
------	---

教科書	なし
参考図書	レクリエーションの基礎
留意事項	学内の授業は講堂にて実施 運動は学校の指定・上靴使用 ※活動場所注意 講義演習内容は予定ですので諸事情により変更があります 資格取得科目につき現場実習が課せられます

令和8年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法評価学 I (実務経験のある教員等による授業科目)	田中 研志	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

理学療法における評価は、根拠を持った治療を行うにあたり重要である。本講義では形態計測・関節可動域検査の意義、目的、方法を学び、実技を通して技術の修得をすることが目的となる。

◇到達目標

- ・形態計測の意義・目的・方法を理解し説明および実施することができる。
- ・関節可動域検査の意義・目的・方法を理解し説明および実施することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	形態計測 形態計測の意義目的～四肢長の意義目的・計測	講義・演習	田中
第2回	形態計測 四肢長の計測～周径の意義目的・計測	講義・演習	田中
第3回	形態計測 周径の計測	講義・演習	田中
第4回	形態計測 周径計測 関節可動域測定 意義目的～	講義・演習	田中
第5回	関節可動域測定 日常生活と関節可動域～肘関節・肩甲帯の計測	講義・演習	田中
第6回	関節可動域測定 肩甲帯の計測	講義・演習	田中
第7回	関節可動域測定 肩関節	講義・演習	田中
第8回	関節可動域測定 肩関節・前腕・手関節	講義・演習	田中
第9回	関節可動域測定 手関節・股関節	講義・演習	田中
第10回	関節可動域測定 股関節・膝関節	講義・演習	田中
第11回	関節可動域測定 足関節・足部	講義・演習	田中
第12回	関節可動域測定 頸部・胸腰部	講義・演習	田中
第13回	関節可動域測定 頸部・胸腰部	講義・演習	田中
第14回	関節可動域測定 手指・足趾	講義・演習	田中
第15回	OSCE 想定演習	講義・演習	田中

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験 (65%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (25%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト (10%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input type="checkbox"/> その他 ()
------	---

教科書	・理学療法評価学 改訂第6版補訂版, 金原出版株式会社 ・理学療法 検査測定ガイド 第3版, 文光堂 ・実践リハ評価マニュアル 臨床ROM 第2版, HUMAN PRESS
参考図書	・標準理学療法学 理学療法評価法 第4版, 医学書院 ・理学療法評価法 第3版, 神稜文庫 ・臨床理学療法評価法, エンタプライズ ・15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 理学療法評価学 I, 中山書店
留意事項	・教科書 P70～P73 表 4-2 は確実に覚えるようにして下さい。 ・実技は計測しやすい格好をしてください(上下半袖半パンなど) ・事前学習・事後学習(予習・復習) 講義の学修内容、学修到達目標を確認し、事前学習として配布資料やテキストなどで30分予

令和8年度 理学療法学科 シラバス

習をしてから講義に臨んでください。

事後学習として講義終了後に必ず60分の復習を行い、理解できたこと、できなかったことを整理、書き出しを行い、教員に質問してください。

形態計測および関節可動域検査は、対象者の骨を指標にして行うことが多いので、骨の触診ができるように、解剖学Iおよび体表解剖学で学習した解剖学的位置関係や触診法を復習しておいてください。

この講義で学習することは臨床現場でも実施頻度の高い検査・測定項目であり必須です。また講義時間のみでは十分な技術は身につかないため、放課後等利用し必ず感染対策を行った上で実技練習を行ってください。

・小テストを疎かにしないようにし、返却しますので、ファイリングし、復習してください。

令和8年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法評価学Ⅱ (MMT) (実務経験のある教員等による授業科目)	米田 文博	1	1	後期	必修 選択

◇講義概要

本講義は、検査と測定における徒手筋力検査法についての理論と技術の習得を目的としている。検査法は Daniels らの方法を用いて行う。また、筋力テストを円滑に行えるようになるための、心構えやオリエンテーションの仕方など、検査者としての正しい態度を身につけることも目的としている。

◇到達目標

1. 理学療法評価における筋力検査、徒手筋力検査法について説明することができる。
2. 筋力検査と徒手筋力検査の手法(肢位、触知、抵抗、代償の制御)を説明することができる。
3. 健常者を対象として、正確に徒手筋力検査を実施することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	徒手筋力検査法概論(教科書 p.1~22)	講義	
第2回	下肢の筋力テスト 股関節①(教科書 p.227~235)	実技	
第3回	下肢の筋力テスト 股関節②(教科書 p.236~253)	実技	
第4回	下肢の筋力テスト 股関節③(教科書 p.254~265)	実技	
第5回	下肢の筋力テスト 膝関節、足関節①(教科書 p.266~284)	実技	
第6回	下肢の筋力テスト 足関節②(教科書 p.285~294)	実技	
第7回	下肢の筋力テスト 母趾と足趾(教科書 p.295~306)	実技	
第8回	第1回 実技試験(下肢のみ)	試験	
第9回	第1回 実技試験(下肢のみ)	試験	
第10回	上肢の筋力テスト 肩甲骨①(教科書 p.93~107)	実技	
第11回	上肢の筋力テスト 肩甲骨②(教科書 p.108~119)	実技	
第12回	上肢の筋力テスト 肩関節①(教科書 p.120~129)	実技	
第13回	上肢の筋力テスト 肩関節②(教科書 p.130~141)	実技	
第14回	上肢の筋力テスト 肩関節③(教科書 p.142~153) 肘関節①(教科書 p.154~158)	実技	
第15回	上肢の筋力テスト 肘関節②、前腕(教科書 p.159~172)	実技	
第16回	上肢の筋力テスト 手関節、手指①(教科書 p.173~189)	実技	
第17回	上肢の筋力テスト 手指②(教科書 p.190~202) 母指①(教科書 p.203~208)	実技	
第18回	上肢の筋力テスト 母指②(教科書 p.209~221)	実技	
第19回	体幹筋のテスト(教科書 p.45~67)	実技	
第20回	頸筋のテスト(教科書 p.23~44)、表情筋のテスト(p.307~)	実技	
第21回	筆記試験	試験	

令和 8 年度 理学療法学科 シラバス

第 22 回	第 2 回 実技試験(総合)	試験	
第 23 回	第 2 回 実技試験(総合)	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験(60 %) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験(下肢:6%、総合:34%) <input type="checkbox"/> 演習評価(%) <input type="checkbox"/> 小テスト(%) <input type="checkbox"/> レポート(%) その他(%)
------	--

教科書	新・徒手筋力検査法(原著第 10 版). 協同医書出版社
参考図書	MMT 適切な検査肢位の設定と代償運動の制御. MEDICAL VIEW 新版 目でみる MMT. 医歯薬出版 PT・OT のための測定評価 MMT・頭部・頸部・上肢 第 2 版. 三輪書店 PT・OT のための測定評価 MMT・体幹・下肢 第 2 版. 三輪書店 KNOW THE BODY 筋・骨格の理解と触診のすべて. 医歯薬出版
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の進捗状況によって、実技試験の実施日が前後することがあります。 ・ 実技試験の際は KC を着用の上、その他も実習時の服装規定に準じます。 ・ 講義前・後に解剖学 I や体表解剖学 I・II、運動学で学んだ知識と照らし合わせる(約 30 分)。 ・ 予習・復習を行うこと(約 60 分)。

令和8年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法評価学Ⅲ (実務経験のある教員等による授業科目)	田中 研志	2	2	前期	必修 選択

◇講義概要

安全かつ効果的な理学療法が提供できるように、疾患や障害に対して適用される神経系の各検査と測定の意味・目的を理解する。実技を通して種々の機能障害を把握するための基本的な知識や技術を修得する。理学療法士が行う検査測定結果から臨床推論への基本的な流れが展開できる素地を養う。

◇到達目標

- 理学療法評価における神経学的検査の意味・目的と評価方法について説明できる。
- 神経系の異常による機能障害の程度と関連要因を把握するために必要となる基本的な評価項目を選択することができる。
- 講義で学んだ神経学的検査を安全に実施することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	担当
第1回	オリエンテーション,感覚検査(総論)①	講義	田中
第2回	感覚検査②:表在感覚	講義・実技	田中
第3回	感覚検査③:深部感覚	実技	田中
第4回	感覚検査④:複合感覚	実技	田中
第5回	反射検査①	講義	田中
第6回	反射検査②	実技	田中
第7回	筋緊張検査①	講義	田中
第8回	筋緊張検査②	実技	田中
第9回	片麻痺機能検査(総論)①	講義	田中
第10回	片麻痺機能検査② BRST: I～II	実技	田中
第11回	片麻痺機能検査③ BRST: III	実技	田中
第12回	片麻痺機能検査④ BRST: IV～VI	実技	田中
第13回	平衡機能検査①	講義	田中
第14回	平衡機能検査②	実技	田中
第15回	バランス検査①	講義	田中
第16回	バランス検査②	実技	田中
第17回	協調性検査①	講義	田中
第18回	協調性検査②	実技	田中
第19回	脳神経検査①	試験	田中
第20回	脳神経検査②	試験	田中

令和8年度 理学療法学科 シラバス

第21回	実技試験	試験	複数教員
第22回	実技試験	試験	複数教員
第23回	脳神経検査③	講義・実技	田中
第24回	脳神経検査④	講義・実技	田中
第25回	高次脳機能検査①	講義・実技	田中
第26回	高次脳機能検査②	講義・実技	田中
第27回	高次脳機能検査③	講義・実技	田中
第28回	高次脳機能検査④	講義・実技	田中
第29回	失語症①(言語聴覚学士教員による)	講義・実技	ST 学科教員
第30回	失語症②(言語聴覚学士教員による)	講義・実技	ST 学科教員
第31回	定期試験	試験	田中

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験 (%) <input checked="" type="checkbox"/> 実技試験 (20%) <input type="checkbox"/> 演習評価 (%) <input type="checkbox"/> 小テスト (%) <input type="checkbox"/> レポート (%) <input checked="" type="checkbox"/> その他 (定期試験 80%)
------	--

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法評価学 改訂第6版. 金原出版株式会社 ・ 理学療法 検査・測定ガイド 第2版. 文光堂 ・ ベッドサイドの神経の診かた 改訂第18版. 南山堂 ・ 病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版. MEDIC MEDIA
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ 第3版. MEDICAL VIEW ・ 実験医学別冊 改訂版 もっとよくわかる! 脳神経科学. 羊土社 ・ 理学療法評価学 第3版 (標準理学療法学 専門分野). 医学書院 ・ 理学療法評価学テキスト 改訂第2版. 南江堂 ・ 理学療法評価学 (Crosslink 理学療法学テキスト). MEDICAL VIEW
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳・神経系の理解が必要となるため、必ず解剖学や生理学の復習をしておくこと。 ・ 実技があるため、Tシャツや短パンを常に準備しておくこと。 ・ 講義前・後に解剖学や生理学で学んだ知識と照らし合わせること(約30分)。 ・ 予習・復習を行うこと(約60分)。

令和8年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
日常生活活動学 I (実務経験のある教員等による授業科目)	長坂 俊昌	2	1	前期	必修 選択

◇講義概要

<p>日常生活動作の概念を理解する。 日常生活動作の評価について理解する。 日常生活動作に関わる環境因子について理解する。</p>

◇到達目標

<p>日常生活活動の概念を説明し、生活機能における位置づけが説明できる 日常生活活動の評価が実施できる 日常生活活動における環境因子（人的、物理的）を理解し、指導に活用することができる。</p>

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	ADLの位置づけ・概念・範囲	講義	
第2回	ICFとADL（ADL指導）ADL評価と歴史・目的・実用性	講義	
第3回	時期別意義・さまざまなADL評価	講義	
第4回	B I 評価方法	講義	
第5回	F I M 評価方法	講義	
第6回	F I M 評価方法	講義	
第7回	基本動作概論	講義	
第8回	基本動作各論 各動作意義 介助法など	講義・実技	
第9回	リハ支援機器 概論	講義	
第10回	松葉杖指導	講義・実技	
第11回	歩行器・車椅子・自助具など	講義・実技	
第12回	複合動作指導 概論	講義	
第13回	各種杖の使用方法など	講義・実技	
第14回	車椅子基本構造 操作など	講義・実技	
第15回	試験	試験	

評価方法	<input checked="" type="checkbox"/> 試験（100%） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input type="checkbox"/> 小テスト（ %） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input type="checkbox"/> その他（ %）
------	---

教科書	日常生活活動（ADL） 千住秀明 神陵文庫 脳卒中の機能評価 S I A SとF I M
参考図書	ADLとその周辺 伊藤利之 医学書院 理学療法ハンドブック 協同医書 など
留意事項	実技を行う場合は、ふさわしい服装で受講すること。予習復習に努めること。

令和8年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
運動療法学 (実務経験のある教員等による授業科目)	歌川 貴昭・熊澤 浩一	2	2	前期	必修 選択

◇講義概要

1. 解剖・運動・生理学、運動療法概論等の知識を復習・整理する。
2. 各種障害に対する基本的運動療法の意義・理論・実際を学ぶ。

◇到達目標

1. 運動療法に必要な解剖・運動・生理学、運動療法概論等の知識を使用することができる。
2. 各種障害に対する運動療法について、目的・方法・効果を医学的根拠に基づいて述べることができる。
3. 健常者に対して、基礎的な運動療法を実施することができる。

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション、運動療法の基礎・リスク管理	講義	熊澤
第2回	関節可動域制限に対する運動療法（目的、関節運動、病態と原因など）	講義	熊澤
第3回	姿勢障害に対する運動療法（姿勢の定義・評価）	講義・実習	歌川
第4回	姿勢障害に対する運動療法（体幹の安定性）	講義・実習	歌川
第5回	基本動作能力障害に対する運動療法（寝返り・起き上がり）	講義・実習	歌川
第6回	基本動作能力障害に対する運動療法（立ち上がり）	講義・実習	歌川
第7回	歩行障害に対する運動療法（歩行バイオメカニクス）	講義	歌川
第8回	歩行障害に対する運動療法（動作観察・分析）	講義・実習	歌川
第9回	持久力低下に対する運動療法（持久力の生理学的メカニズム）	講義	歌川
第10回	持久力低下に対する運動療法（評価・運動療法）	講義・実習	歌川
第11回	コンディショニング、全身調整運動（循環調節）	講義・実習	歌川
第12回	バランス障害に対する運動療法（バランス障害の定義・評価・運動療法）	講義・実習	歌川
第13回	協調性運動障害に対する運動療法（協調性障害の定義・障害理解）	講義	歌川
第14回	協調性運動障害に対する運動療法（重錘・弾性包帯・体操）	講義・実習	歌川
第15回	関節可動域制限に対する運動療法（評価のポイント、禁忌・注意点）	講義・実習	熊澤
第16回	関節可動域制限に対する運動療法（運動療法の種類と意義）	講義・実習	熊澤
第17回	関節可動域制限に対する運動療法（ストレッチング、二関節筋）	講義・実習	熊澤
第18回	関節可動域制限に対する運動療法（様々なストレッチング）	講義・実習	熊澤
第19回	筋力低下に対する運動療法（骨格筋の機能、筋力規定因子、原因、様式）	講義・実習	熊澤
第20回	筋力低下に対する運動療法（3大原理、トレーニングの種類など）	講義・実習	熊澤
第21回	筋力低下に対する運動療法（OKC、CKC）	講義・実習	熊澤
第22回	筋力低下に対する運動療法（スクワット、スロートレーニングなど）	講義・実習	熊澤
第23回	運動連鎖と姿勢（分類と機能・下肢荷重連鎖）	講義・実習	熊澤

令和8年度 理学療法学科 シラバス

第24回	痛みに対する運動療法	講義	熊澤
第25回	末梢神経性運動麻痺に対する運動療法	講義	歌川
第26回	感覚障害に対する運動療法	講義	歌川
第27回	腎機能障害に対する運動療法	講義・実習	歌川
第28回	火傷の運動療法	講義・実習	歌川
第29回	加齢による機能障害に対する運動療法（加齢による生理的変化）	講義	歌川
第30回	加齢による機能障害に対する運動療法（運動療法）	講義・実習	歌川

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験（ %） <input type="checkbox"/> 実技試験（ %） <input type="checkbox"/> 演習評価（ %） <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト（20%） <input type="checkbox"/> レポート（ %） <input checked="" type="checkbox"/> その他（定期試験 80%） ※再試験があった場合は、再試験のみで評価する
------	--

教科書	15 レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動療法学 石川朗 編 中山書店
参考図書	運動療法学-障害別アプローチの理論と実際 第2版 市橋則明 編 文光堂 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論 吉尾雅春 編 医学書院 運動療法学 柳澤健 編 金原出版 Crosslink 理学療法テキスト 運動療法学 対馬栄輝 編 MEDICAL VIEW IDストレッチング 鈴木重行 編 三輪書店 病気が見える vol.7 脳・神経 メディックメディア
留意事項	※ 各回の該当する運動療法学概論（運動療法学総論の教科書）事前に復習しておくこと（約30分） ※ 講義後にテキスト、講義資料を用い復習をおこなうこと（約60分） ※ 服装は学校指定ジャージ、半袖・短パン等で筋や関節が露出できるようにしてください

令和8年度 理学療法学科 シラバス

科目名	担当講師	学年	単位数	開講期	種別
理学療法総合演習 I (実務経験のある教員等による授業科目)	長坂俊昌・田守康彦・歌川貴昭・米田文博	2	2	前期	必修 選択

◇講義概要

講義・演習を通じて直接的、間接的情報収集の意義・目的を理解し、実施に必要な知識・技能・態度を習得する。

◇到達目標

- ・ 間接的、直接的情報収集の意義目的の理解、実施に必要な知識・技能・態度の習得
- ・ 理学療法過程について理解できる。
- ・ 評価計画が立案できる

◇授業計画

回数	内容	講義形態	備考
第1回	オリエンテーション 理学療法の職業理解について	講義	長坂
第2回	理学療法過程 疾患の調べ方について	演習	複数教員
第3回	疾患理解について	演習	長坂
第4回	間接的情報収集について	講義	複数教員
第5回	直接的情報収集ワーク①	講義	複数教員
第6回	直接的情報収集ワーク①	演習	複数教員
第7回	直接的情報収集ワーク②	講義	複数教員
第8回	直接的情報収集ワーク②	演習	複数教員
第9回	直接的情報収集ワーク③	講義	複数教員
第10回	直接的情報収集ワーク③	演習	複数教員
第11回	直接的情報収集ワーク④	講義	複数教員
第12回	直接的情報収集ワーク④	講義	複数教員
第13回	直接的情報収集ワーク⑤	講義	複数教員
第14回	直接的情報収集ワーク⑤	講義	複数教員
第15回	評価計画立案ワーク	演習	長坂
第16回	評価計画立案ワーク	演習	複数教員
第17回	評価計画立案ワーク	演習	長坂
第18回	評価計画立案ワーク	演習	複数教員
第19回	評価計画立案ワーク	演習	長坂
第20回	評価計画最終調整	演習	複数教員
第21回	5学科合同演習 専門職連携	演習	長坂
第22回	5学科合同演習 専門職連携	演習	長坂

令和8年度 理学療法学科 シラバス

第23回	評価実践	講義	複数教員
第24回	評価実践	演習	複数教員
第25回	評価実施後指導 情報整理	講義	複数教員
第26回	評価実施後指導 情報整理	演習	複数教員
第27回	OSCE 演習	講義	田守
第28回	OSCE 演習	演習	歌川
第29回	OSCE 演習	講義・演習	米田
第30回	見学実習Ⅱ直前ワーク	講義・演習	複数教員
第31回	定期試験	講義	長坂

評価方法	<input type="checkbox"/> 試験(%) <input type="checkbox"/> 実技試験(%) <input checked="" type="checkbox"/> 演習評価(30%) <input type="checkbox"/> 小テスト(%) <input type="checkbox"/> レポート(%) <input checked="" type="checkbox"/> その他(定期試験 70%)
------	---

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版. 金原出版 ・講義資料（講義中に配布する）
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・実践編 ケースで学ぶ 理学療法臨床思考 第2版. 文光堂 ・理学療法評価法学 改定第6版. 金原出版 ・図解 理学療法 検査・測定ガイド 第2版. 文光堂 ・ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版. 南山堂 ・統合と解釈がよくわかる 実践! 理学療法評価学. 医歯薬出版 ・ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－. 中央法規 ・理学療法ハンドブック 改訂第4版（第1～4巻）. 協同医書出版社 ・理学療法 臨床実習サポートブック. 医学書院
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床実習を想定し、ケーシー・学校指定シューズを着用の上、身だしなみを整えて受講すること。 ・予習・復習を行うこと。
備考	